

予 算 要 求 資 料

令和 2 年度 9 月 補正 予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工 鉱業 振興費

事業名 セラミックパーク MINO 環境整備事業費(維持管理分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 地場産業振興係 電話番号:058-272-1111(内 3094)

E-mail: c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 7,212 千円 (現計予算額:1,128 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	1,128	0	0	0	0	0	0	0	1,128
補 正 要求額	7,212	0	0	0	0	0	0	0	7,212
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

セラミックパークMINO(多治見市)は、建設から17年が経過し、施設の適正な管理を図るうえで設備等のメンテナンスや老朽化に伴う修繕等が必要となっている。

そうした中、3年に1度開催される国際陶磁器フェスティバル美濃が令和3年9月に開催予定であり(前回の来訪者:約25万人)、県や地元市のほか、陶磁器産業界が関与する世界的なイベントとなっている。

(2) 事業内容

セラミックパークMINOの適正な管理運営を図るため、老朽化や更新周期を迎えた設備等の修繕を実施。

セラミックパークMINOは、令和3年9月に開催予定の国際陶磁器フェスティバル美濃のメイン会場であり、開会式会場となる国際会議場の設備

(スクリーン及びプロジェクター)を更新するもの。

(3) 県負担・補助率の考え方

セラミックパークMINOの指定管理者である(公財)セラミックパーク美濃との基本協定上、60万以上の修繕にかかる費用は県が負担することとなっており、上記事業は修繕にかかる経費であるため県が実施すべきものである。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	2,772	スクリーンの改修工事
備品購入費	4,440	プロジェクターの更新
合計	7,212	

決定額の考え方

(1) 各種計画での位置づけ

無

(2) 後年度の財政負担

施設の老朽化に伴い、今後も修繕箇所や設備の更新は益々増加すると考えられるため、同施設の計画的、効率的な維持管理を目的に中長期保全計画を策定済。今後、当該計画に沿った計画的修繕経費を要求していく。

(3) 事業主体及びその妥当性

セラミックパークMINOは、陶磁器産業と文化の融合を目的として設置、産業の発展及び観光の振興に資する事業(貸館、イベント等)を行うため、多数の来場者が想定される。

来館者の安心・安全のためにも、県が実施することは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

陶磁器産業と文化の融合施設であるセラミックパークMINOを活用し、美濃焼はもとより、美濃焼産地の魅力を国内外へ発信し、岐阜県の産業、文化振興を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
国際会議場稼働率（単位：％）	(H)	27.3% (H29)	—	33.1% (H30)	40% (R2)	83%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

(1) 施設の維持管理

設備の保守管理、施設修繕の実施、職員巡視による安全確認の実施、警備の実施、敷地内里山も含む施設の清掃業務の実施、危機管理体制の整備、各種環境衛生管理関係法令の遵守など、24時間365日に渡り施設の安全及び維持管理を適切に実施してきた。

(2) 施設の運営・催事誘致活動

貸出施設への催事誘致営業、来館者アンケートの実施、地元陶磁器業界との交流、現代陶芸美術館やレストランとの連携、作陶館の運営、ショップ及びギャラリーの運営、周辺里山での自然観察会の実施など、魅力と活気に溢れる施設づくりに努めた。

(3) 自主企画事業

地元産業振興、文化振興、観光振興、地域振興を目的とし、以下の自主企画事業を実施しその達成に努めた。

①『美濃焼インキュベーション事業』【産業振興事業】

美濃焼の市場開拓と新商品開発を目的に、国内外のレクサス販売店舗を中心

に展開される、レクサスのこだわりアイテムを揃えた「レクサスコレクション」に掲載する作家の提案を行った。

②『陶芸作家展』【文化振興事業】

美濃を拠点に活動する陶芸作家の作品の展示販売を行った。

③『セラパーク楽々市』【地域振興事業】

多くの地元商店や住民の出店とともに、多くの来場者があった。

④『青空マルシェ』【地域振興事業】

セラパークの賑わいづくりを目的とし、地元住民の集客に努めた。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

- 適切に施設の維持管理、運営・催事誘致活動を行い、来場者増を図った。
- 来館者数は前年同程度で推移した。
- 貸館稼働率については、景気低迷の影響で経済界の動きが鈍くなっているものの、リピーターの確保や新規誘致の努力を続け、稼働率を維持している。
- 今後は継続的にアイデアを募り、さらなる利用促進をはかっていく。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）

○：必要性が高い △：必要性が低い

(評価)

○

施設の貸出事業（国際会議場）を効果的に進め、令和3年度の陶磁器フェスティバルを開催するため、プロジェクト及びスクリーンの生地の色あせや汚れ、映像の色むらが発生しており、会議の運営に支障を来す状況も発生していることから、喫緊に改修が必要である。

・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）

○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている

△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

○

国際会議場を有効に活用するため、プロジェクト及びスクリーンの更新が必要である。

・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）

○：効率化は図られている △：向上の余地がある

(評価)

○

メーカーの耐用年限を大幅に超えて使用しており、効率的な活用を図ってきたところ。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

陶磁器産業は、日本人のライフスタイル・価値観の変化や安価な外国製品の流入、長引く不況による消費力の減退など極めて厳しい状況下にあるため、陶磁器文化・産業振興の拠点であるセラミックパークMINOの魅力をより一層高めていく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

セラミックパークMINOは、本県の地場産業であり、東濃3市（多治見市、土岐市、瑞浪市）の基幹産業でもある「美濃焼」をテーマに、産業振興及び文化振興の拠点として重要な役割を果たしてきていることから、今後も施設を効果的に維持管理していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	